

ご あ い さ つ

日本藻類学会会長 原 慶明

この度、平成13、14年の2年間、日本藻類学会の会長に選挙され、図らずもこの重責を担うことになりました。新たな世紀の始まりと学会創立50周年の節目の任期であり、学会の更なる発展を期す重要な時期ですので、学会のためには十分な体制が組める確固たる実力派の会長のもとで行われるのが妥当と思われまふ。この任に当たるに際し、歴代の会長および会員の方々が築かれてきた基盤を頼りに、大過なく無事任期を全うしたいというのが本音ですが、現在の本学会が置かれた状況と自身の微力さを考慮に入れると2年間の悪戦苦闘を覚悟しなければなりません。

前会長の堀輝三先生及びアジア太平洋藻類学連合(APPA)の李仁圭先生から大きな宿題をいただいたの出発です。一つはすでに評議会の審議を受けておりますが、会長選挙の方法と手続きの見直しです。加えて、学会の議決に関する申し合わせの確認です。どちらも会則改正を伴った重要案件ですので慎重に審議を重ね、任期中に決着をつけねばならないと考えております。もう一つ、李会長は香港のアジア太平洋藻類学フォーラム(APPF)のClosing Ceremonyで、APPAとアジア太平洋地区の各国・地域の藻類関係組織との連携の強化案を提示し、その案のとおり、APPAの運営組織に日本藻類学会の会長及び会員の代表が委員として参画することになりました。その関連で、平成13年6月にはAPPAのExecutive Committeeの第1回会合(平成12年までは原が、平成13年度から神戸大学の川井浩史氏が議長)とそれに付随したシンポジウム「21世紀に向けた藻類学」が山形で開催されること、および本学会総会ですでに承認されましたように第3回アジア太平洋藻類学フォーラムが平成14年7月に日本(つくば地区)で、日本藻類学会50周年記念行事と第26回日本藻類学会大会と合同で開催されることが決まっております。シンポジウムと合同会議の準備委員会は昨年すでに発足し、計画・実行の端緒につきました。会員の皆様にはまもなくそれらの期日・内容をお知らせできると思ひます。いずれにいたしましても、これらの特別な行事と通常の学会活動を円滑に実施するために会員各位からの多大なご協力とご援助が必要であります。会長就任のご挨拶に代えて、学会発展のため、従前にましてご高配くださるようお願い申し上げる次第です。

なお、山形大学に事務局を立ち上げるのに際し、堀前会長の仲介で高知大学理学部の峯 一朗氏に会員事務担当庶務幹事を、山形大学理学部の菱沼 佑氏に庶務幹事、半沢直人氏には会計幹事を願ひいたしました。特に半沢氏には新たに学会に入会していただいた上で幹事をお引き受け願った経緯がございます。ここに記して御礼申し上げます。

平成13年1月
(山形大・理・生物)